

九州ネット

10月17日
(土)

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

鹿児島黒豚ミニラウンド



【ところ】鹿児島大学教育学部附属小学校

桜島の活動がなりを潜める中、県外から2人、県内から46人、計48人もの方々の参加をいただき、鹿児島では本年度2回目の鹿児島黒豚ミニラウンドを開催しました。鹿児島大学教育学部附属小学校の「授業力アップ講座」とのコラボ開催の実現を喜び、鹿児島で年に2回も集まれることに感謝・感激の一日でした。

また、情報交換会にも多数御参加いただき、鹿児島での熱く長い1日は、胸いっぱい、充実感いっぱいになりました。

1 鹿児島大学教育学部附属小学校「授業力アップ講座」

附属小学校体育科の3人の先生が、授業を提供してくださいました。

- (1) 1年い組「すりぬけおにあそび」：當房省吾教諭
- (2) 3年に組「ルールを工夫したハンドボール」：須藤信司教諭
- (3) 5年い組「ルールを工夫したバスケットボール」：阿部大亮教諭



3人の先生方の授業をもとに、体育科の授業づくりについて語りました。

附属小学校から提案された授業実践のポイントは、右の3点でした。

今回は、「ゲーム・ボール運動系」の領域にしぼり、系統性を重視した授業提供と授業研究が行われました。附属の子どもたちの生き生きした姿に元気をもらうとともに、参加された先生方の熱心な研究協議に勇気をもらいました。

現行学習指導要領の趣旨に基づいた体育科の授業づくりについて、たくさんのヒントをいただいた午前中でした。

ア 指導内容の明確化（運動領域をしぼって）
イ ねらいに迫る運動教材の設定
ウ 運動課題を解決するための教師の働きかけの工夫

2 話題提供：「アクティブ・ラーニングとインクルーシブ体育の推進」

座長の鹿屋体育大学 佐藤 豊 教授から、「アクティブ・ラーニングとインクルーシブ体育」のテーマで、話題を提供していただきました。次期学習指導要領改訂のキーワードということで、大変興味深い話を聞くことができました。

特に、体育学習においてアクティブ・ラーニングを進めるためには、「わかる」と「できる」をつなぐことが大切であること、そして、そのために思考・判断がきわめて重要であるということなどを認識することができました。また、体育・保健体育における資質・能力の論議についてのお話もあり、大変勉強になりました。



2 グループ協議：「学び合いを深める授業アイデアの検討」

今回は、「学び合いを深める授業アイデアの検討」と題して、グループ協議を行いました。

佐藤先生からの説明に従って、右表のようなテーマで、グループごとに「学び合いを深める事業アイデア」を出し合いました。

校種の違う人同士でのグループ編成でしたが、それぞれのグループでいろいろなアイデアが出され、明日からの授業実践に役立つものになりました。

班	テーマ
1	オリエンテーションのアイデア
2	準備運動～動きづくりのアイデア
3	教材化のアイデア（態度、思考・判断を育てる）
4	まとめ、振り返りのアイデア
5	学習カードの工夫



【写真：グループでの協議の様子】



【写真：グループごとに出されたアイディア】

3 成果物の発表とまとめ

グループ協議まで終了したあと、成果物を相互に見合いながら意見交換を行いました。

出されたアイデアを下記に紹介します。（一部抜粋）

〔準備運動～動きづくりのアイデアグループ〕

- 短時間で効果的な準備運動にする必要がある。
- 動きづくりを考えて、主運動につながる運動を取り入れる必要がある。
- 「創る」ことも必要（カスタマイズ）

〔学習カードの工夫グループ〕

- 自己評価、相互評価ができるように、観点を精選する必要がある。
- 学習のめあてとまとめのつながりを考慮する必要がある。
- いかん、次時の授業に反映させるかを考慮する必要がある。

各グループから出されたアイデアを見ていて、ネットワークに出席される先生方のレベルの高さを実感しました。

最後に、佐藤先生から熱いメッセージをいただきました。



4 結びにかえて

県外から、岩手の清水先生、宮崎の西田先生をお迎えして48人でのすばらしい研究会になりました。

授業を提供してくださった鹿児島大学教育学部附属小学校の先生方、準備や片付けをお手伝いいただいた方、「今回は行けないけど、応援してるよ」とメッセージをくださった方、いろいろな方々の力でネットワーク研究会が盛り上がっていることを痛感した1日でした。

鹿児島で年内に2回の研究会が開催できたことに感謝しています。

（報告：伊地知）

